

親の気持ち、医者思い

2003.12.29

12月に入って嘔吐や下痢の症状で来院する方がとても多くなりました。点滴をして嘔吐を止める座薬やお薬を飲んでもらうとたいいは1～2日で嘔吐がおさまりあとはちょっと時間のかかる水下痢だけが残る、そんなこどもが大半でした。ちょっとの水分を飲ませてみて吐かなかたら少しずつ水分を増やして、食べさせたいという気持ちはわかるけど吐くとまた最初に戻るの、食べることはゆっくりでいいんだからね。エンドレステープで流して説明したいと思うほど同じ症状のお子さんばかりでした。

ある日曜日、クリニックからの転送電話が鳴りました。また吐いているのでとにかく診て欲しいという悲痛なお母さんの叫び。私はねむたい目をこすりながらクリニックへ向かいました。そこでお話を聞くと・・・。「点滴をして元気になって、少し食べて吐かなかつたので早く元気になってもらおうと思って。こどももおなかが空いたというのでたくさん食べさせたらまた吐いてしまった。」

私の前に現れたおさんは2日前とうって変わって元気。診察するとおなかの動きもよくなっていて、一度吐いた後は水を飲んでも吐かなくなっている。私が点滴の後でお母さんに話したことはとってもよく理解してくれていたのですが、早くよくなってもりもり食べる以前の我が子の姿を見たいという親の気持ちには医者思いが勝てなかったようです。

「早く元気になって欲しいという親の気持ちは大切だけど、症状によってはその気持ちにブレーキをかけることも必要ですよ。でも気持ちにブレーキをかけられなかった私の思いの伝え方が悪かったのかもしれない。」そんなお話をしてお別れしました。

人に自分の思いを伝えるのってとっても難しいですね。ちょっとへこんで疲れがたまった12月でした。明日からまた診療が始まります。こどもの元気をもらって私も元気にならなければ。